



トピックス…③ 浜中町の村越氏が日本農林漁業 振興会会長賞を受賞

平成29年10月18日、農林水産祭中央審査委員会（会長 千賀裕太郎氏）が開催され、平成29年度（第56回）農林水産祭の天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の受賞者が決定した。酪農経営では、北海道厚岸郡浜中町の村越敏春・晴子ご夫妻が日本農林漁業振興会会長賞に選出された。

1. 農林水産祭の概要

農林水産祭は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会の共催により昭和37（1962）年から実施されている。

天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞は、過去1年間（平成28年8月～平成29年7月）の農林水産祭参加表彰行事（298件）において、農林水産大臣賞を受賞した487点の中から決定された。各賞は、農産・蚕糸部門、園芸部門、畜産部門、林産部門、水産部門、多角化経営部門、むらづくり部門の7部門に授与された（表参照）。また、女性の活躍が著しい2点に対して、内閣総理大臣賞と日本農林漁業振興会会長賞が授与された。

表彰は、勤労感謝の日の11月23日に明治神宮会館で開催された農林水産祭式典において行われた。

2. 受賞者の特徴

畜産部門から日本農林漁業振興会会長賞に選出されたのは、北海道厚岸郡浜中町で酪農経営を営む村越敏春・晴子ご夫妻の「搾乳ロボット、草、牛フル活用！ゆとりの酪農」で、第3回全国自給飼料生産コンクール（日本草地畜産種子協会主催）において農林水産大臣賞を受賞し、農林水産祭への参加となった。

（1）地域の概要

浜中町は、北海道東部の釧路市と根室市のほぼ中央に位置し、酪農と漁業が基幹産業である。冬は気温が-15℃以下になる厳しい地域であり、町の北部はほぼ全域が酪農地帯で、15,000haの牧草地に人口の倍以上の乳牛約23,000頭が飼養され、牛乳生産量100,000tを超える酪農地域である。

（2）受賞者の取組の経過と経営の現況

村越敏春氏は、入植2代目の酪農経営者で、平成15年に父親から経営移譲された。妻の晴子氏は、東京都の非農家出身であるが、酪農ヘルパーの経歴を持ち、育児・家事と仕事を両立してきた。

村越夫妻は、平成17年にフリーストール飼養方式と搾乳ロボット・アプレストパーラー併設方式を導入した。この時の搾乳ロボットの導入は、町内で初めての先駆的な事例として注目された。

栄養豊富な自給飼料生産にも取り組み、高い飼料自給

率（粗飼料自給率100%）を達成している。また、新しい技術を積極的に取り入れ、省力化と労働生産性に優れた経営を構築している。乳用牛飼養頭数（年平均）は158頭（うち成牛86頭）である。

3. 受賞の理由

（1）自給飼料基盤に立脚した搾乳ロボットの活用

飼料分析に基づくTMR（混合飼料）の調製、放牧の利用、乳量に応じた濃厚飼料の個別給与を行い、潤沢な草資源を効率的に利用している。搾乳ロボットを導入しても、乳量増加を求めず（経産牛1頭当たり産乳量8,550kg）、自給飼料給与割合の高い経営を維持している。

搾乳牛が自ら搾乳ロボットに入ることが効率的な稼働に重要なことから、搾乳牛の足腰の健康維持のため放牧を重視している。搾乳ロボット先進国のオランダでは放牧との組合せがあるが、国内では珍しく、参考になる事例である。

（2）機械導入による自動化や外部委託による超省力化、軽労化

搾乳ロボットや餌寄せロボット等の導入による作業の自動化、コントラクターへの作業の委託、育成牧場への育成牛の預託により、搾乳牛1頭当たりの労働時間は47.7時間と全国平均104時間、北海道平均91.3時間に比べて驚異的に短い。

（3）高品質な自給飼料の生産

早刈りなど計画的な草地更新により、高栄養、高採食性の自給飼料生産に取り組んでいる。コントラクターに作業委託する草地には高栄養草種を導入し、刈り遅れた場合の品質低下を抑制している。自給飼料からの栄養摂取量が改善されたことから購入飼料が節減され（乳飼比24.6%）、高いTDN（可消化養分総量）自給率と所得率を達成している。

（4）普及性と今後の発展方向

搾乳ロボット等の省力化機械の導入や外部組織の活用等を通じて労働負担の軽減を図り、超省力的な家族経営の酪農を実現している。村越夫妻は、今後も自給飼料の品質向上に向けた植生改善、乳牛の繁殖管理や健康維持に最大限の努力を注ぐとしており、その姿勢を含めて優良なモデルと期待できる。村越夫婦による先駆的な取り組みの成功により、地域内では現在6戸の経営が搾乳ロボットを導入している。

平成29年度（第56回）農林水産祭天皇杯等受賞者（畜産部門）

| | 出品材 | 受賞者 | | 表彰行事 |
|------------------|-----------------|---------------|-------------------------|---------------------------|
| | | 住所 | 氏名等 | |
| 天皇杯 | 経営 (養豚) | 宮崎県 児湯郡川南町 | 有限会社 香川畜産 (代表 香川 雅彦) | 平成28年度全国優良 畜産経営管理技術発表会 |
| 内閣総理 大臣賞 | 経営 (肉用牛繁殖) | 鹿児島県 霧島市 | 株式会社 玉牧場 (代表 久留須 茂) | 平成28年度全国優良 畜産経営管理技術発表会 |
| 日本農林漁業 振興会会長賞 | 技術・ほ場 (飼料生産) | 北海道 厚岸郡浜中町 | 村越 敏春 村越 晴子 | 第3回全国自給飼料生産 コンクール |